

200mL 全血採血のあり方に関する資料

条 件		(1) <u>400mL 献血を推進</u> し、初回の若年層を対象として 200mL 献血を制限した場合 (血漿と赤血球をいずれも使用)	(2) 若年層全体で 200mL 献血を推進し、 <u>血漿のみを使用</u> し、赤血球は輸血用血液として使用しない場合。	(3) 若年層全体で 200mL 献血を推進し、 <u>200mL 献血由来赤血球×2 本の供給を推進</u> した場合 (血漿と赤血球をいずれも使用)	(4) <u>若年層 (特に高校生) の初回献血者のみ</u> を対象に 200mL 献血を推進し、初回の若年層以外の 200mL 献血の制限を許容した場合 (血漿と赤血球をいずれも使用)																								
評価項目	献血者の理解	初回の若年層を対象に献血制限することから、将来に亘る継続的な献血者確保に繋がらない。 ×	赤血球を輸血用血液として使用しない (未使用と分かっているながら採血する) ことに、理解が得られるか。 △	将来の献血基盤となる若年層のみならず、献血全体の理解が得られやすくなるものと考えられる。 ○	将来の献血基盤となる若年層については、理解が得られるが、初回の若年層以外の献血者を制限することに理解が得られるか。 △																								
	献血者の確保	中長期的には、200mL 献血を含めた若年層の献血推進に課題が残る。 ×	献血者の理解が得られれば、中長期的には、200mL 献血も含めた若年層の献血推進がより可能となる。 △ 200mL 献血の血漿のみ使用することから、血漿成分献血を制限する必要がある。	中長期的には、200mL 献血を含めた若年層の献血推進がより可能となる。 ○	中長期的には、200mL 献血を含めた若年層の献血推進がより可能となる。 ○																								
	血液センターの負担	400mL 献血者数は増加するが、200mL 献血者数がそれ以上に減少するため、材料費、経費等のコスト減となる。 ○	血漿成分献血者数は減少となるが、200mL 献血者数、400mL 献血者数がそれ以上に増加するため、材料費、経費等のコスト増となる。 ×	200mL 献血者数が増加することから、材料費・経費等のコスト増となる。 ×	200mL 献血者数全体は変わらないため、材料費・経費等のコストは変わらない。 △																								
	輸血患者の負担	医療機関からの 400mL 献血由来製剤の需要により近づけることができ、感染リスクは軽減し、負担は軽減されるものと考えられる。 ○	医療機関からの 400mL 献血由来製剤の需要により近づけることができ、感染リスクは軽減し、負担は軽減されるものと考えられる。 ○	200mL 献血由来製剤の供給が増加することにより、感染リスクが高くなることから、負担は増加するものと考えられる。 ×	200mL 献血由来製剤の供給量は変わらないため、感染リスクは変化なく、負担は変わらない。 △																								
	医療機関の負担	輸血検査や輸血セット等に係るコストや手技的な負担は軽減されるものと考えられる。 ○	輸血検査や輸血セット等に係るコストや手技的な負担は軽減されるものと考えられる。 ○	輸血検査や輸血セット等に係るコストや手技的な負担は増加するものと考えられる。 ×	輸血検査や輸血セット等に係るコストや手技的な負担は変わらない。 △																								
条件を満たすための対応と全血献血者数 (推定)		若年層の 200mL 献血 (初回) 者数 (22 年度) 単位:人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>男性</th> <th>女性</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16-19 歳</td> <td>28,610</td> <td>46,383</td> <td>74,993</td> </tr> <tr> <td>20-29 歳</td> <td>3,616</td> <td>24,366</td> <td>27,982</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,226</td> <td>70,749</td> <td>102,975</td> </tr> </tbody> </table> *200mL 献血 103,000 人を制限対象とし、 <u>減少分を 400mL 献血で確保する。</u>	年代	男性	女性	計	16-19 歳	28,610	46,383	74,993	20-29 歳	3,616	24,366	27,982	計	32,226	70,749	102,975	*200mL 献血は、右記 (3) と同様に <u>547,000 人の確保が可能と推定される。</u> *400mL 献血は左記 (1) と同数を確保する。 *200mL 献血の 547,000 人-360,000 人=187,000 人については、血漿のみ使用することから、 <u>血漿成分献血者数 49,000 人を制限することになる。</u>	*右記 (4) の 200mL 献血で 48,000 人の確保に加え、特に 200mL 献血者数の制限による減少傾向がみられる 20 代女性を対象として推進した場合、さらに <u>36,000 人の献血者確保が可能と推定される。</u> * <u>400mL 献血 42,000 人が制限対象となる。</u>	高校献血実施状況 (22 年度) 単位:人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>200mL</th> <th>400mL</th> <th>計</th> <th>実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40,871</td> <td>21,863</td> <td>46,383</td> <td>23.4%</td> </tr> </tbody> </table> *実施率を 50%とした場合とし、初回献血率は 56.1%(10 代)であるため、 <u>200mL 献血で 48,000 人の確保が可能と推定される。</u> * <u>初回若年層以外の 200mL 献血 48,000 人が制限対象となる。</u>	200mL	400mL	計	実施率	40,871	21,863	46,383	23.4%
年代	男性	女性	計																										
16-19 歳	28,610	46,383	74,993																										
20-29 歳	3,616	24,366	27,982																										
計	32,226	70,749	102,975																										
200mL	400mL	計	実施率																										
40,871	21,863	46,383	23.4%																										
*以下の 22 年度献血実績を基に各条件の献血者数の推定を行っている。 200mL 462,937 人 (12.3%) 400mL 3,304,819 人 (87.7%) 計 3,767,756 人		200mL 献血 360,000 人 (9.7%) 400mL 献血 3,357,000 人 (90.3%) 計 3,717,000 人	200mL 献血 547,000 人 (14.0%) 400mL 献血 3,357,000 人 (86.0%) 計 3,904,000 人	200mL 献血 547,000 人 (14.4%) 400mL 献血 3,263,000 人 (85.6%) 計 3,810,000 人	200mL 献血 463,000 人 (12.3%) 400mL 献血 3,305,000 人 (87.7%) 計 3,768,000 人																								